



～メダカ！タヌキ！アライグマ！？～

1. 7. 19
杉並区広報課

企画展「杉並の生き物と外来生物」開催中！

杉並区立郷土博物館（大宮1-20-8）では、7月13日より企画展「杉並の生き物と外来生物」を開催しています。「杉並にはどんな生き物がいるのだろう」「外来生物ってなんだろう」など、生き物のあり方などについて考える内容になっており、会場では杉並に生息していた生き物や外来生物を剥製や標本、パネル展示などで紹介しています。

かつて杉並は「武蔵野の雑木林」がおりなす緑豊かな里山風景が広がり、キツネやニホンアナグマ、オオムラサキなど、今では杉並では見られなくなってしまった生き物が多く生活していました。しかし急激に進んだ都市化や近年の外来生物の侵入によって、杉並を取り巻く生態系は大きく変化しました。

企画展「杉並の生き物と外来生物」では、杉並に生きる、生きていた生き物を注目するとともに、身近に存在する外来生物に注目し、私たちの身の回りにはどんな生き物がいるのか、またどんな外来生物がいて、どんな問題が起きているのかを紹介する展示となっています。

本展示では、外来生物を一面的にではなく、多面的にとらえることを推奨しています。例えば、国内の生態系がアライグマやブラックバスなどの流入で一方向的に脅かされているように感じられますが、実はクズやイタドリ、マメコガネなど、日本由来の生き物が「外来生物」として世界各地で猛威を奮っているという事実、また、外来生物といっても外国から来たものだけをいうのではなく、カブトムシが元々生息していなかった北海道に流入して定着してしまったというような国内間の移動も「国内外来生物」という一種の外来生物であると紹介しています。子どもたちの“夏休みの自由研究”の対象になるだけでなく、大人も大いに楽しんで学べる展示構成となっています。



企画展「杉並の生き物と外来生物」

【日時】7月13日（土）～9月8日（日）午前9時～午後5時

（会期中休館日：毎週月曜日、7月18日（木）、8月15日（木））

【会場】杉並区立郷土博物館（大宮1-20-8）

【観覧料】100円（中学生以下は無料、20名以上の団体は一人80円）

【問い合わせ先】

杉並区立郷土博物館：03-3317-0841